

Title	「部落問題論」の効果と学生の意識： 1989年度学生意識調査の結果から読み取 れること
Author	野口, 道彦
Citation	同和問題研究：大阪市立大学同和問題研 究室紀要. 13 卷, p.111-155.
Issue Date	1990-03
ISSN	0386-0973
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学同和問題研究会

部落問題論の効果と学生の意識

— 1989年度学生意識調査の結果から読み取れること —

野口道彦

§ 1. はじめに

大阪市立大学同和問題委員会は、1989年度に学生に対する意識調査をおこなった(注1。委員会は作業グループを編成。私はその一人として調査票の作成や結果の集計、分析作業に参加した。1989年度の委員会は、属性別集計結果と自由回答を要約した『同和問題に関する学生意識調査報告書』(1990年3月)を公表した(注2)。

さらに1990年度委員会は、この調査結果を分析し、知見をまとめる作業を行った(注3。その結果は、『人権問題ニュース』(臨時増刊号)で、公表された(注4。この作業グループにも、私も加わった。この小論は、もともとその作業グループに参考資料として提出したものである。あくまで、私の個人の観点から分析したものであり、委員会の責任においてまとめられたものではない。両者の関係は、無関係ではないが、責任において、独立している。

注1) 学生意識調査にあたっては、1989年度同和問題委員会は、作業グループを編成。メンバーは金屋平三(文学部)、森井浩世(医学部)、野口道彦(同和問題研究室)、このメンバーが調査票作成から、『報告書』のまとめまでを担当。

注2) 大阪市立大学同和問題委員会『同和問題に関する学生意識調査報告書』(1990年3月)は、性別、学年別、学部系列別の集計結果をコメントをつけずにデータだけをのせている。自由回答については、回答を分類し、代表的意見を要約している。

注3) 1990年度同和問題委員会は、分析作業をするために作業グループを組織。メンバーは東恒雄(工学部)を座長とし、木下博明(医学部)、大黒俊二(文学部)、岩崎錦(生活科学部)、野口道彦(同和問題研究室)、オブザーバーとして委員長の塩澤由典(経済学部)も参加。

注4) 『人権問題ニュース』(臨時増刊号、1990年11月)は、広く調査結果を知らせるという目的から、前回の調査とくらべて変化した点や、学部系列別、男女別にて特徴的な点を中心に紹介し、立ち入った分析やそのバック・データの詳しい論述は省略している。

これを、このような形で報告するのは、1990年3月の『報告書』と『人権問題ニュース』で報告されなかった点、あるいは紙数の関係で不十分にしか述べられなかった点を補うことにある。

ここでやっている分析は、各質問項目間の関係である（注5。属性別の考察や前回1985年度の調査と比較については、『報告書』でデータの完全な公表がおこなわれており、関心のある人なら自分で分析できるので、ここでは行わない（注6。

§ 2. 部落問題論受講の効果（高校以前の「同和教育体験」との比較）

まず、部落問題論がどの程度の成果をおさめているのかをみてみよう。その前に部落問題論の受講状況をみておこう。今回の調査では、2回生の回答者のうち「受講した」が44%、3回生では41%、4回生以上44%であり、「現在受講している」は1回生36%、2回生12%である。一方、教養部データでは、1989年度の部落問題論の受講者は、1回生の30%、2回生の13%、3回生、4回生も1~2%が受講している。例年このような受講状況であり、およそ全学生の半数近くが部落問題論を受講している。したがって、部落問題論を受講の有無が、今回の調査の回答率に影響を及ぼしていると言いがたい。

注5) 相関はスピアマンの順位相関係数を計算した。質問によっては回答肢を順位づけられるように回答肢コードを変換した。例えば、問4では「単位をとった」を1、「現在受講している」を2、「単位はとらなかった」、「いずれ受講するつもり」や「受講するつもりはない」を一つにまとめて3とした。

他にコード変換した質問は、問11である。「事務の人か先生に知らせる」を1、「その場ですぐに落書きを消す」を2、「とくに何もしない」を3とし、「その他」や「わからない」は欠損値としてあつかい、計算から除外した。

相関関係の+、-の符号は、もともになるクロス表で左上から右下に数がかたまっている場合がプラス、逆に左下から右上に数がかたまっている場合がマイナスとして、機械的につけたもので、意味の上での順相関、逆相関ではない。

注6) 前回1985年度の調査と比較検討することを一つの柱にして、調査票は設計された。今回は質的データをとることをもう一つの柱とし、自由回答記入欄を3カ所に設けた。この点は前回調査と違っている。また、民族問題関係の質問が問13から問21まで設けられたが、それらはここでは分析の対象としていない。

(1) 部落問題に関する基礎知識について (Q5)

概括的にまとめれば、高校までの「同和教育体験の有無」(Q3)は、部落問題に関する意見形成に、あまり影響を及ぼしていない。それよりも大学での「部落問題論の受講」(Q4)の方が、影響を与えている。

個別にみていこう。まず、部落問題の基礎知識 (Q5A～Q5F)。AからFの6項目についてすべて、「部落問題論」の受講者は、「同和教育体験者」よりも知識を増やしている。とくに、C「答申」については、「同和教育体験」と有意な相関はないが、「部落問題論受講」では、.225の相関がある。

なお、同和教育体験がE(興信所条例)、F(地対財特法)で効果がないが、これは最近のものであるため。

AからFで「知っている」としたものに単純に1点を与えて、これらの知識の有無を尺度化してみよう。最大は6点、最低は0点となる。

モードは3点のところであり、ほぼ正規分布している。平均は3.03である。つまりAからFの項目のうち半分だけを知っているのが、平均的な学生の実態である。

これと「同和教育の体験」とのピアソンの相関は、.0896と5%レベルの危険率でかろうじて有意であるが、微弱な相関にすぎない。ところが、「部落問題論受講」では、.3415とハッキリした相関関係がみられる。

(2) 部落問題についての意見 (Q9)

(a) 「同和教育経験」と相関がなく、「部落問題論受講」と相関があるのは次の5つである。いずれも大学における教育効果がみとめられる。すなわち、「部落問題論受講」を受講したものは、「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいた方がよい」(Q9K)と考えるものが少なくなり(-.2610)、「部落問題に深くかかわることには、ためらいを感じてしまう」(Q9C)ものは少なくなり(-.1749)、「同和対策事業を特別にすることは、もう必要がないと思う」(Q9I)ものが少なくなり(-.1559)、「部落の人たちが、かたまって住まないで、分散して住むようにすれば、問題は解決すると思う」(Q9G)ものが少なくなる(-.1328)。しかし、「部落問題を解決するため

表 2 - 1 部落問題の基礎知識量

	分 布	構 成 比
0 点	1 1	3.2
1 点	3 2	9.4
2 点	7 5	22.1
3 点	1 1 4	33.6
4 点	5 1	15.0
5 点	3 6	10.6
6 点	2 0	5.9
計	3 3 9	100.0

には、部落の人たちの職業の安定や教育の向上をはかることが大切だと思う」(Q9H)が多くなる(.1246)。

- (b) 「同和教育体験」と「部落問題論受講」とで、相関の方向に逆に変わったものが1項目ある。これは極めて興味深い。つまり高校までの「同和教育体験」をもつものは、「部落差別はいけないことだが、私とは関係ない話した」(Q9A)ととらえる傾向にあるが(.1025)、「部落問題論」を受講したものは、この考え方を否定する傾向にある(-.2107)。部落問題論は、部落問題を身近な問題としてとらえさせることに成功している。

もちろん、高校までの「同和教育」の教育効果が十分にみられないといって、否定するのは危険である。体験してきた教育内容は、学生によって千差万別、多種多様である。「部落問題論」の内容がほぼ一定であるのと対象的である。さらに、「同和教育体験」といっても、ある、なしを問っているだけのきわめて単純、素朴な質問であることは、いうまでもない。

- (c) 「部落問題論受講」と相関しないものが5項目みられた。「人間のつくる社会である以上、部落差別はいつまでたってもなくならない」(Q9A)、「部落問題を解決するためには、自分のなかにある差別意識や偏見をなくすことが大切だと思う」(Q9D)、「差別した者を厳しく追及するのは当然だ」(Q9E)、「部落の人自身が、差別されないように自分の行いを反省す

ることが必要だ」(Q9F)、「部落の人と結婚すると生まれてくる子どもがかわいそうだ」(Q9J)の各意見である。

この中で、「部落問題を解決するためには、自分のなかにある差別意識や偏見をなくすことが大切だと思う」が相関しないというのは、納得できる。この意見を支持するものは9割を越えている。「差別はいけないこと」としているものは、規範レベルでこの意見に反応し、賛成したのだろう。しかし、これを否定するものの反対の理由は一様ではない。単に「意識の問題」に還元するのは問題だというもの、社会構造的な視点を重視するものなど、ある意味で部落問題を深く認識しているものから、「われわれの側の差別意識のせいにするのは、筋ちがい」とし、「部落側にこそ問題がある」とするものまで、部落問題に対するかまえていうと正反対のものが、含まれてくる。そのために相関がでなかったのだろう(注7)。

しかし、他の項目で「部落問題論受講」と相関なしという結果は、意外である。とくに、「人間のつくる社会である以上、部落差別はいつまでたってもなくなるしない」や「部落の人自身が、差別されないように自分の行いを反省することが必要だ」、「部落の人と結婚すると生まれてくる子どもがかわいそうだ」の考え方の問題点を十分に理解させていないのは、部落問題論の不十分な点として反省しなければいけない。

§ 3. 「部落問題ハンドブック」や「委員会声明」の効果

- (1) 概括的にいえば、「委員会声明や学長談話」(Q7)の方が「部落問題ハンドブック」(Q8)より、大半の項目で、相関が高くなっている(表3-1)。内容からすれば「部落問題ハンドブック」の方が、はるかに豊富であるのに、なぜだろうか。「部落問題ハンドブック」は、入学時に配付さ

注7) この意見をもつものは、「声明・談話」を読んだものに多い。「部落問題論受講」や「ハンドブック」など相関がみられない中で、興味深いことだ。「委員会声明」が差別事件についてのものが大半であるために、「部落問題を解決するためには、自分のなかにある差別意識や偏見をなくすことが大切だと思う」という意見に影響を与えているのだろうか。

表3-1 「声明・談話」、「ハンドブック」の影響

部落問題についての意見(Q9)や態度	「ハンドブック」	「声明」	「部落問題論受講」
A. 「いつまでたってもなくならない」	n.s.	-.1180	n.s.
B. 「関係のない話だ」	-.2974	-.2977	-.2107
C. 「ためらいを感じる」	-.1709	-.2120	-.1749
D. 「差別意識をなくすこと」	n.s.	.1831	n.s.
E. 「厳しく追求するのは当然だ」	n.s.	n.s.	n.s.
F. 「自らの行いを反省することが必要だ」	-.1527	-.1663	n.s.
G. 「分散すれば、問題は解決」	-.1458	-.1393	-.1328
H. 「職業の安定や教育の向上」	.1996	.2172	.1246
I. 「同和対策事業は、もう必要がない」	-.2056	-.2211	-.1559
J. 「子どもがかわいそう」	-.1230	-.1194	n.s.
K. 「そっとしておいた方が良い」	-.3360	-.3867	-.2610
Q10-2「親の態度の評価」(親が反対の場合)	n.s.	-.1380	-.0982
Q10-3「自己の行動」(親が反対の場合)	.0955	.2302	.1241
Q11 「差別落書への行動」	.3196	.3339	.2198

れる。その時に読まなければ、その後、取り出して読む機会はどれぐらいあるのだろうか。時間が経てば、読んだ印象も薄れていく。「委員会声明や学長談話」は、機会あるごとに出されているので、目にすることが多い。鮮度が違い、与える印象も強いのかもしれない。このような解釈がなりたつのだろうか。

これとは、また別の解釈もなりたつ。「声明・談話を読んだ」が何を意味しているのかを、さらに詳しく検討してみよう。

(2) 一般的に「部落問題論受講」よりも「委員会声明や学長談話」が相関が高い。

なかには、質問9のA, D, E, F, Jなどのように、「部落問題論受講」が有意な相関がなくても、「声明・談話」が相関を持つ場合がある。本来なら、単発的な「声明・談話」より、継続的・系統的な「部落問題論」の与える影響の方が強いと予想されるのであるが、なぜだろうか。

二通りの解釈ができる。一つは、すなわち「声明・談話」の及ぼした効果であるとみる解釈である。いま一つの解釈は「声明・談話」を読んだか否かは、もともとの部落問題についての意識の高さを示しているのであ

て、「声明・談話」それ自体の影響ではないとみる。

いずれの解釈が妥当か。まず、「部落問題論の受講」と「声明・談話」との関係をみておこう。表3-2が示しているように、「受講した」者の方が、やや「声明・談話」を詳しく読む傾向が認められる ($r=.1322$) が、それほど大きな差異ではない。

表3-2 部落問題論受講別の「声明・談話」の講読

		委員会声明や学長談話を読んだか？				計
		詳しく読んだ	ところどころ	チラリとみた	しらない	
部落 問題 論	受講した	(a) 16 14.3	46 41.1	30 26.8	(c) 20 17.9	112 100.0
	受講していない	(b) 13 7.6	57 33.3	55 32.2	(d) 46 26.9	171 100.0

「部落問題論の受講」の影響と「声明・談話」の影響を比較検討するために、この二つを組み合わせ、その中から4つのタイプをとりだした(表3-2の網かけ部分)。(a)「部落問題論を受講し、かつ声明・談話を詳しくよんだ」ものは16人、(b)「受講していない」が「詳しく読んだ」は13人、(c)「受講した」が「知らない」は20人。これらは、いずれも多くはない。(d)「受講もせず、声明・談話も知らない」は46人、比較的多い。

これら4つのグループが、どのような意見をもっているのかをみてみよう。表3-3や表3-4に例示したように、(a)の「部落問題論を受講し、かつ声明・談話を詳しくよんだ」者の意見は、(d)の「受講もせず、声明・談話も知らない」と際立つ差異を示している。たとえば、「騒がないで、そっとしておいたほうがよい」という意見を支持するものは、(d)の「受講もせず、声明・談話も読んでいない」グループでは7割近くみられるが、(a)の「部落問題論を受講し、かつ声明・談話を詳しくよんだ」者の中では皆無である。

表3-3 部落問題論受講及び「声明・談話」による
グループ別と寝た子論

		「騒がないでそっとしておいた方がよい」				計
		そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらかという とそう思わない	そうおもわ ない	
(a)	受講し、詳 しく読んだ	—	—	3	13	16
		—	—	18.8	81.3	100.0
(b)	詳しく読ん だが、受講 せず	1	3	1	7	12
		8.3	25.0	8.3	58.3	100.0
(c)	受講したが 読んでいな い	2	6	5	7	20
		10.0	30.0	25.0	35.0	100.0
(d)	受講せず読 んでもいな い	17	14	8	7	46
		37.0	30.4	17.4	15.2	100.0

($r = -.5496$)

表3-4 部落問題論受講及び「声明・談話」による
グループ別の「関係のない話だ」

		「部落差別は、私とは関係のない話だ」				計
		そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらかという とそう思わない	そうおもわ ない	
(a)	受講し、詳 しく読んだ	—	—	3	13	16
		—	—	18.8	81.3	100.0
(b)	詳しく読ん だが、受講 せず	—	—	4	9	13
		—	—	30.8	69.2	100.0
(c)	受講したが 読んでいな い	1	4	6	9	20
		5.0	20.0	30.0	45.0	100.0
(d)	受講せず読 んでもいな い	5	18	13	10	46
		10.9	39.1	28.3	21.7	100.0

($r = -.5291$)

表3-5 「部落問題論受講」と「声明・談話」によるグループ尺度との相関

部落問題についての意見(Q9)や態度	尺度 α	尺度 β
A. 「いつまでたってもなくなるらない」	n.s.	n.s.
B. 「関係のない話だ」	-.5291	-.4677
C. 「ためらいを感じる」	-.3460	-.3573 *
D. 「差別意識をなくすこと」	.1991	.1347
E. 「厳しく追求するのは当然だ」	n.s.	n.s.
F. 「自らの行いを反省することが必要だ」	-.2874	-.2756
G. 「分散すれば、問題は解決」	-.2578	-.2622 *
H. 「職業の安定や教育の向上」	.2954	.2244
I. 「同和対策事業は、もう必要がない」	-.3952	-.3752
J. 「子どもがかわいそう」	-.2006	-.1759
K. 「そっとしておいた方がよい」	-.5496	-.5199

Q10-3 「自己の行動」	.2916	.2363
Q11 「差別落書への行動」	.5708	.4936

注) 尺度 α は表3-2の網かけの4つのカテゴリーを(a)から(d)の順に、配列したものである。尺度 β は、(b)と(c)の順序を入れ換えたものである。

また、「部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話だ」と思うものは、(d)の「受講もせず、声明・談話も読んでいない」グループのなかでは半数近くみられるが、(a)「部落問題論を受講し、かつ声明・談話を詳しくよんだ」者の中では皆無である。

また、(a)は、(b)や(c)より積極的な意見をもつものが多くなっているから、「部落問題論受講」や「声明・談話」は相乗効果をもっていることがはっきりと確認できる。

つぎに、「部落問題論」と「声明・談話」がどちらが影響を与えているか比較してみよう。表3-3や表3-4をみても、わかるように(b)の方が(d)よりも積極的意見をもつものが多くなっている。さらに、この点を相関係数で調べてみた。尺度 α は、(a) \Rightarrow (b) \Rightarrow (c) \Rightarrow (d)という順序で順位相関を計算したもの。尺度 β は(b)と(c)を逆にし順位相関を計算したもの。この二つを比べると純粋に「部落問題論受講」と「声明・談話」とを比較できる。結果は、表3-5のとおりである。大半の項目で、尺度 α は尺度 β より相

関は強くなっている。つまり「声明・談話」の方が「部落問題論受講」よりも、プラスの影響を与えていることがわかる。逆に相関が低くなったのは、C、Gの二つの項目だけである。

以上のように、「声明・談話」が「部落問題論受講」より強い相関を示すことが確認できた。こうした結果をいかに読み取ればよいのだろうか。いかに「声明・談話」がよくできたものであったとしても、短い「声明・談話」が、部落問題論よりも強い影響を及ぼす力を持っているとは考えがたい。いままでは、「声明・談話」の効果という文脈で考えてきたが、実はそうではなさそうだ。つまり因果関連でいうと、「声明・談話」が原因、「部落問題についての意見」が結果ではなく、逆に、「部落問題についての意見」が原因で、「声明・談話を詳しく読むか、読まないか」は、結果である可能性が大きい。「声明・談話文」を詳しく読むものは、部落問題にもともと関心をもってたと解釈するのが自然なのではないか。

この解釈が妥当するかどうか、われわれの手持ちのデータで検証することはできないだろうか。そう考えて、「部落問題の基礎知識」との関係をしらべてみた。そうすると、部落問題の基礎知識量のあるものほど、「声明・談話」を詳しく読む傾向がある（.2902）ことがわかった。また、「受講してよかった」とするものほど、「声明・談話」を詳しく読む傾向がある（.2902）ことがわかった。また、「受講してよかった」とするものほど、「声明・談話」を詳しく読む傾向がある（.3350）ことがわかった。上の解釈の妥当性は、傍証されたといえよう。

とはいえ、「部落問題論受講」の有無が期待したほど、大きな影響を与えないということは、私も含めて講義担当者の反省を促すものである。単に受講するものが多ければ、よいという問題ではない。受講したか否かより、それ以上に受講態度の方が意味をもっているのだろう。そこで、「部落問題論の評価」（Q4-1）で「受講してよかった」とするものと、「声明・談話を詳しくよんだ」とするものとを比べてみた。表3-6は、「受講してよかった」とするもの（論支持派）と「論は受講しないが、声明・談話を詳しく読んだもの」（関心派）とをとりだし、各々のグループで、

表3-6 「部落問題論の評価」と「声明・談話」との比較

部落問題についての意見 (Q9) や態度	論を受講して 「良かった」	声明・談話を 「詳しく読んだ」
A. 「いつまでたってもなくならない」	24%	8%
B. 「関係のない話だ」	6%	—
C. 「ためらいを感じる」	32%	69%
D. 「差別意識をなくすこと」	93%	92%
E. 「厳しく追求するのは当然だ」	75%	58%
F. 「自らの行いを反省することが必要だ」	17%	33%
G. 「分散すれば、問題は解決」	23%	33%
H. 「職業の安定や教育の向上」	93%	92%
I. 「同和対策事業は、もう必要がない」	14%	17%
J. 「子どもがかわいそう」	9%	16%
K. 「そっとしておいた方がよい」	10%	33%
Q10-3 「自己の行動」	90%	100%
Q11 「差別落書への行動」	77%	64%

注) %は、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせたもの。

表3-7 「論の評価」との相関

部落問題についての意見 (Q9) や態度	
A. 「いつまでたってもなくならない」	-.1272
B. 「関係のない話だ」	-.3450
C. 「ためらいを感じる」	-.2678
D. 「差別意識をなくすこと」	n.s.
E. 「厳しく追求するのは当然だ」	n.s.
F. 「自らの行いを反省することが必要だ」	-.1581
G. 「分散すれば、問題は解決」	-.1922
H. 「職業の安定や教育の向上」	.1940
I. 「同和対策事業は、もう必要がない」	-.2272
J. 「子どもがかわいそう」	-.2431
K. 「そっとしておいた方がよい」	-.3665
Q10-3 「自己の行動」	.2025
Q11 「差別落書への行動」	.3993

注) 「論の評価」は、Q4-1の「良かった」⇒「受けなかったが、詳しく読んだ」
⇒「どちらともいえない」⇒「受けず、読まず」という尺度を作成。

各意見に賛成したものの割合を示している。「論支持派」が「関心派」より、反応のよいものは、C, E, F, G, J, K, Q 11である。逆に関心派の方が反応のよいものは、A, Q 10-3 ぐらいである。すなわち、部落問題論を受講して、「良かった」と評価しているものは、受講せずに自ら関心をもち「声明・談話」を詳しくよむものより、部落問題について理解を深めていることがわかる。

ここまで明らかになったことをまとめる。第一は、「声明・談話」は、部落問題に対する関心の有無を測定している可能性が強く、読んだ効果をここから読み取ることは難しい。第二に、表面的な相関をみて、部落問題論が、「声明・談話」より効果がないと単純にいうことは誤りである。第三に、実践的には、「部落問題論」受講者の量ではなく、論の質が問われている。つまり、「受講して良かった」といえる講義の中味をつくっていくことが大切である。第四に、どれが効果的かということに注意を奪われるよりも、論の受講、「声明・談話」、「部落問題ハンドブック」などの相乗的に効果を及ぼしていることの方に注意を払うべきだろう。

§ 4. 部落問題に関する意見

部落問題に関するAからKまでの相互の相関係数は、表4-1のとおりである。各項目の意味は、回答者によって取り方が違わないように、工夫している。そうはいっても、一つひとつの項目の受け取り方は、人によって微妙に違う。だから回答は同じであっても、そこに込められた思いや、背景にある判断は各人各様、千差万別であろう。しかし、こうした相関マトリックスをながめてみると、いくつかの質問は、相互に関連しあっており、それぞれの意見が親近性をもっていることがわかる。そうした関係の中で個々の意見の位置をみると、恣意的ではなく、それが意味しているものを掴みだすことができる。もっともこれも、最大公約数的なものであることにはちがいないが。

たとえば、「部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話だ」(Q9B)と「部落に深くかかわることにはためらいを感じてしまう」(Q9C)とは、強く結びついている。また、「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいた

表4-1 相 関 マ ト リ ッ ク ス

部落問題についての意見 (Q9)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
A. 「なくなるしない」	1										
B. 「関係のない話だ」	.2300	1									
C. 「ためらいを感じる」	.2239	.4552	1								
D. 「差別意識をなくす」	-.1275	-.1921	-.1022	1							
E. 「厳しく追求するのは当然だ」	n.s.	n.s.	-.1056	.1864	1						
F. 「自らの行いを反省すること」	.1746	.2288	.2184	-.1085	n.s.	1					
G. 「分散すれば、問題は解決」	.1246	.3280	.2159	n.s.	n.s.	.2323	1				
H. 「職業の安定や教育の向上」	-.1484	-.1382	n.s.	.1875	.2047	n.s.	.1085	1			
I. 「同和対策事業は、不要」	n.s.	.2539	.1697	-.2551	-.3003	.2668	.2733	-.2442	1		
J. 「子どもがかわいそう」	.3801	.3492	.3480	-.1452	n.s.	.2331	.2096	n.s.	n.s.	1	
K. 「そっとしておいた方がよい」	.1480	.4851	.3742	-.2243	-.1905	.3549	.4442	-.1409	.4216	.3236	1
Q10-1 「親の態度の予測」	.2184	.1006	.2329	n.s.	n.s.	.0922	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
Q10-2 「親の態度についての見方」	n.s.	.1398	n.s.	-.1556	n.s.	.1172	n.s.	-.1098	.2165	.1096	.1441
Q10-3 「自己の態度の予想」	-.3166	-.3301	-.3033	n.s.	n.s.	.2074	-.1285	n.s.	n.s.	-.6297	-.3008
Q11 「差別落書きを発見した時」	n.s.	-.3862	-.3487	n.s.	.2013	-.1452	-.1577	.2002	-.2570	-.2187	-.3727

ほうがよい」(Q9K)と「部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話だ」(Q9B)とは強く結びついている。さらに、寝た子を起こすな論(Q9K)と「部落の人たちが、かたまって住まないで、分散して住むようにすれば、部落問題は解決する。(Q9G)とは親近性をもつ意見だ。さらに寝た子を起こすな論は、「同和対策事業を特別にすることは、もう必要がない」(Q9I)という意見としっかり結びついている。

これら5つの意見は、11の意見の中では、相互に強い結びつきをもっている。つまり、このうちの一つの意見を変えるには、他の意見も変える必要があり、逆に、一つの意見を変えれば、同時に他の意見の変容が生じるということの意味している。こうした点から、啓発活動・教育の内容を吟味する必要があるだろう。部落問題に関する意識の内部は、構造化されているという点を指摘して、ここではこれ以上の考察はしない。関心のある人は、表4-1の相関マトリックスからさまざまな意味を読み取ってもらいたい。

§ 5. 部落出身者との結婚についての態度

「もし仮に、あなたが結婚しようと思っている人が、部落出身であることがわかった場合」、どうするかをたずねた。その結果は、「結婚しないだろう」は、2割を越えている。一般に市民対象の意識調査では、「部落出身者との結婚に反対する」が5割を越えているのからみると、結婚を忌避するものは少ない。そうはいっても、本学の部落出身学生にしてみれば、この2割という数字はショッキングなものであろう。

学生のみた態度はどうか。厳しい。63%の学生は、親の反対を予想している。そのうち「頭から、とんでもないと反対するだろう」と予想するものは、27%である。逆に、親が「賛成する」との予想は3分の1程度。そのうち「ためらうことなく、賛成してくれるだろう」だけをみれば、全体のわずか1割程度である。

(1) 「親の態度」と「自己の行動」との関係

この「親の態度」と「自己の行動」との相関は、-.4957と極めて高い。すなわち学生の行動は、親の態度に大きく依存しているといえる。表5-1に

表5-1 親の態度の予測と自らの行動

Q 10-3 Q 10-1		自 己 の 行 動					計
		きつと結婚する	たぶん結婚する	たぶん結婚しない	きつと結婚しない	不 明	
親の とる 態度 の 予想	頭から反対する	15 16.0	27 28.7	42 44.7	6 6.4	4 4.3	94 100.0
	たぶん反対する	23 19.2	70 58.3	22 18.3	1 0.8	4 3.3	120 100.0
	たぶん賛成する	36 41.4	47 54.0	1 1.1	— —	3 3.4	87 100.0
	きつと賛成する	26 74.3	7 20.0	1 2.9	— —	1 2.9	35 100.0
	計	100 29.8	151 44.9	66 19.6	7 2.1	12 3.6	336 100.0

上段：実数 下段：%

みられるように、親が「頭から、とんでもないと反対するだろう」と予想する学生のうち52%は、「結婚しない」とし、他方「親はためらうことなく、賛成してくれるだろう」と予想する学生では、「結婚する」は94%にも達する。この点だけみると、今日の若者の結婚忌避の原因は、伝統的な差別意識を内面化しているためでなく、そのほとんどは、「親の反対」によるものであるかにみえる。

もしそうだとすると、「親の反対」があるとしても、それを批判的にとらえ、親に同調しない力をいかに身につけていくかが問われているといえよう。

(2) 「親の態度の評価」と「自己の行動」との関係

そこで、「親の態度」と「自己の行動」との関係をつなぐ媒介変数として、「親の態度の評価」を入れて分析してみよう。

二つの場合に分けてみる。親が「反対する」と予想するグループと「賛成する」と予想するグループの二つに。まず、「親が反対」のグループをとりだす。この場合、「親の態度の評価」と「自己の行動」との相関は、-.4390と極めて高い。すなわち、表5-2にみられるように、親の態度を「もっともだ」とする39人のうち、72%のものは「結婚しない」と答えている。の

表5-2 (親が反対の場合)親の態度への評価と自らの行動

Q10-3 Q10-2		自 己 の 行 動				計
		きつと結婚 する	たぶん結婚 する	たぶん結婚 しない	きつと結婚 しない	
親 の 態 度 の 評 価	もっともだ	2 5.1	9 23.1	22 56.4	6 15.4	39 100.0
	納得でき ない	23 16.3	79 56.0	38 27.0	1 0.7	141 100.0
	許せない	13 52.0	9 36.0	3 12.0	— —	25 100.0
	計	38 18.5	97 47.3	63 30.7	7 3.4	205 100.0

こる28%のものは、「親の態度の評価」のしかたと「自己の行動」とが矛盾している。回答の信頼性を疑うこともできるが、強いて解釈すると、「差別が現実にあるなかで、親が反対するのは当然だ。しかし、そうだとしたとしても、親の気持ちには従うことができない」として「結婚する」と答えたのかもしれない。そうではない、これはタテマエで回答したものだと厳しく読み取ることできる。その場合でも、親の気持ちと自分との間に矛盾が生じていることは間違いないのだから、その葛藤を乗り越えるには、よほど強い意思と部落問題についての正しい認識の裏付けが必要だ。親の反対を「もっともだ」とするもののうち「結婚する」は28%であるが、タテマエの回答ではなく、葛藤のすえにこう回答したものがどれぐらい含まれるかは、わからないが、そのうち「きつと結婚する」と回答したものがこのケースに当てはまるとすると、わずか2人、5%にすぎない。

一方で、反対する親を「許せない」とするのは25人、このうち88%までは、「結婚する」と答えている。「親の態度の評価」と「自己の行動」が一致しているケースである。残る12%のものは、くいちがっている。デタラメに回答したものでないとすると、「親の態度は許せないが、理不尽な親の態度であれ、でもそれに逆らうことはできない」と考えたものであろう。

多数の学生は、親の反対を「許せない」とまでは厳しく受けとめていないが、「納得できない」とみている。そうした見方をしている場合でも「結婚する」とするものは、72%にとどまる。残る28%のものは、「結婚しない」

とする。この自己の行動の取り方は、親の反対の強さに大きく依存している。親が「迷いながらも、結局は反対するだろう」とみるものでは、「結婚する」は87%だが、「頭から、とんでもないと反対するだろう」とみるものでは、53%と少なくなる。

つぎに親が「賛成する」と予想するグループをとりだす。この場合、「親の態度の評価」と「自己の態度」との間には、有意な相関はない。これは表5-3にみるように、「親が賛成する」場合には、それを「もっともだ」に集中するためである。合理的に説明できないケースがみられる。「親が賛成」とするのに、それを「親がそんな態度をとるのはわかるが、納得できない」としておりながら、「結婚する」と回答するものが20人ほどいる。そのほか「賛成する」親を「許せない」としつつ「きっと結婚する」と回答するものが2人存在する。これらは回答エラーとみられる。

しかし、「賛成する」親を「もっともだ」といいながら、しかし自分は「たぶん結婚しない」と回答するものが2人存在する。回答エラーの可能性が高い。そうでないとすると、典型的な部落出身者との結婚を忌避するものである。どのような経過かはわからないが、部落に嫌悪感をもってしまったのだろう。

以上の結果を、つぎのようにまとめることができる。学生の3分の2の学

表5-3 [親が賛成の場合] 親の態度への評価と自らの行動

Q 10-3 Q 10-2		自 己 の 行 動				計
		きっと結婚する	たぶん結婚する	たぶん結婚しない	きっと結婚しない	
親の態度の評価	もっともだ	49	39	2	—	90
		54.4	43.3	2.2	—	100.0
	納得できない	10	10	—	—	20
		50.0	50.0	—	—	100.0
許せない	2	—	—	—	2	
	100.0	—	—	—	100.0	
計		61	49	2	—	112
		54.5	43.7	1.8	—	100.0

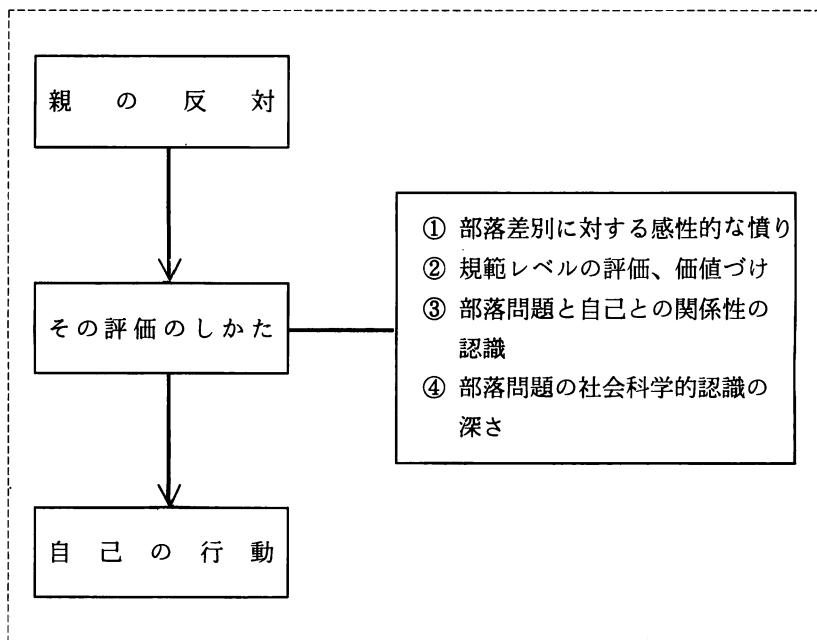
生は「親が反対する」と予想している。そしてそのうちの多くは、「親がそんな態度をとるのはわかるが、納得できない」とみる。しかし、その場合でも結婚するかしないかは、親の反対の強さに依存している。強く反対されても「きっと結婚する」というのは、わずか15%にすぎない。

親の態度が「自己の行動」を大きく左右するとしても、ダイレクトに影響をあたえるのではなく、その間に「親の反対をどのようにとらえるか」が媒介変数として働いている。「反対する」親を、「そんな態度をとるのはわかるが、納得できない」とするだけでは、不十分だ。もう一步踏み込んで、「許せない」と厳しく受けとめるようになれば、結婚差別に加担する可能性を10%程度までに減少することができる。

§ 6. 「親の態度の評価」を左右するもの

では、親の反対の受けとめ方を「もっともだ」から「納得できない」、さら

図6-1



に「許せない」へと変化させる要因はなんであろうか。

この点をさぐってみよう。「親の態度の評価」の背景にあるものを考えてみると、さしあたり思いつくのは、①部落差別に対する感性的な憤り、②規範レベルの評価、価値づけ、③部落問題と自己との関係性の認識、④部落問題の社会科学的認識の深さなどである。これらが複合的に作用しあって、「親の態度のとらえかた」を形成していると考えられる。この点を因果関係的に仮説化すると、次のように図示できよう。

いま、この調査で、これら5つの要因のすべてについて対応する質問項目があるわけではないが、近いものとして表6-1のような質問項目があげられる。それぞれの「親の態度の評価」との相関は、表に示したとおりである。強い相関ではないが、これらの要因が、「親の態度の評価」に影響をあたえていることがわかる(注8)。

表6-1 「反対する親の態度の評価」との相関

要 因	質 問 項 目	相 関 係 数
①部落差別に対する感性的な憤り	Q9-E 「糾弾は当然」	-.1376
②規範レベルの評価、価値づけ	Q9-D 「差別意識をなくすこと」	-.1854
③部落問題と自己との関係性の認識	Q9-B 「関係のない話しだ」	.2409
④部落問題の社会科学的認識の深さ	Q9-K 「そっとしておいた方がよい」 Q5A-F 基礎知識	.2551 .1465

§ 7. 「子どもがかawaiiそう」という意見

その一方で、J「子どもがかawaiiそう」という意見が結婚忌避に、大きな影響を与えていることが明らかになった。その相関係数は、-.6297という極めて高いものである。結婚を忌避する動機として、親の賛成が得られないことの他

注8) その他、「親の態度の評価」との相関があるものは、C「ためらいを感じる」(.3304)、I「同和対策事業」(.2012)であり、G「分散論」やH「職業の安定を」は有意な相関がない。

に別の回路が存在するのである。もちろん、「親の態度の評価」を媒介とし、「親の反対」と、「生まれてくる子がかわいそう」という意見が、相互に関連しあっていることが十分に予想されるがしかし、「自己の行動」にこのように強い影響を与えていることをみると、独立した要因としてとらえるべきであろう。

では、何が「部落の人と結婚すると、生まれてくる子がかわいそう」という意見を生み出しているのだろうか。まず、部落差別の厳しさを認知していることがあげられるだろう。しかし、部落差別の厳しさを認知それ自体は、「生まれてくる子がかわいそう」という意見を生み出すものではない。差別の認識は、ある者には部落差別と闘う意志と情熱を生み出し、他の者には、部落差別からの逃避や、場合によっては部落差別への加担を生み出す。差別からの逃避が生まれるのは、「部落差別はいつまでたってもなくなる」という無力感を感じているからだろう。と同時に「差別はいけなしいとは口では言っている、だれも本気で考えていない。私だけが行動して、損をするのは嫌だ」という他者不信、ないしは目先の損得勘定で行動する傾向が、差別からの逃避を生み出す。さらには、「生まれてくる子がかわいそう」という意見の背景には、子どもの主体性、子どもの自立性を尊重するのではなく、子ばなれ・親ばなれしない親子関係、日本社会の支配的な価値としてわれわれの中に深く根を下ろしている親子関係観があるのかもしれない。

さて、今回の学生意識調査では、これらの要因をすべて聞いているわけではない。わずかに②の「部落解放の展望の喪失」だけだ。Q9のA「いつまでたってもなくなる」と「生まれてくる子がかわいそう」と

表7-1 「生まれた子がかわいそう」との相関

要 因	質 問 項 目	相関係数
①部落解放の展望の喪失	Q9-A 「差別はいつまでたってもなくなる らない」	.4196
②性別		-.2348
③教育効果	Q4 「部落問題論の受講」	-.1398
	Q4-1 「部落問題論の評価」	-.2610

の相関は、.4196 と、かなり高い(注9。なお、女性と男性と比べると、女性の方がはるかに、「生まれてくる子がかわいそう」とするものが多い。なぜだろう。親子の一体感が作用しているのだろうか。この点を深く探してみると、「生まれた子がかわいそう」という意識の生まれる背景が解明できるだろう。

§ 8. 落書きを発見したときの行動

落書きを発見したときの行動に影響を与えることが予想される質問項目は、B.「差別はいけないことだが、私とは関係のない話した」(-.3862)、C.「部落問題に深くかかわることには、ためらいを感じてしまう」(-.3487)、K.「差別、差別」と騒がず、そっとしておいた方がよい」(-.3727)である。いずれも予想どおり、高い相関をしめしている。

しかし、同じ行為レベルでの質問である「自己の態度」と「差別落書き」との間の相関は、.1408であり、予想されたほど強くない。

「差別落書きを発見した時の行動」と「親の態度の評価」(反対の場合)との方が、-.2365と強くなっている。この点は、今後の検討課題であるが、ただ予想されるのは、結婚についての「自らの行動」の方がより、自己の利害とかかわりが深く、きれいごとですまないからではないか。それにたいして「差別落書きを発見した時の行動」も「親の態度の評価」も、ともに規範レベルでの反応という点で共通点があるからではなかろうか。そんな解釈が浮かんでくる。

§ 9. おわりに

大学における部落問題のさまざまな取り組みも、部落問題を偏見にとらわれず科学的、理性的に認識する能力を育てるとともに、実践的には部落問題に積極的に行動する主体の形成を目標としている。その一つの現実場面として、この意識調査では、「結婚する相手が部落出身であった時」という想定をして聞いている。親や周囲の「反対」に遭遇した場合に、それを批判的にとらえ、自立的に行動することができる主体が形成されているかどうか。意識調査にみら

注9) これは、親が反対している学生のものである。全体でも、.3801と高い。

れた結果は、楽観できるものではない。

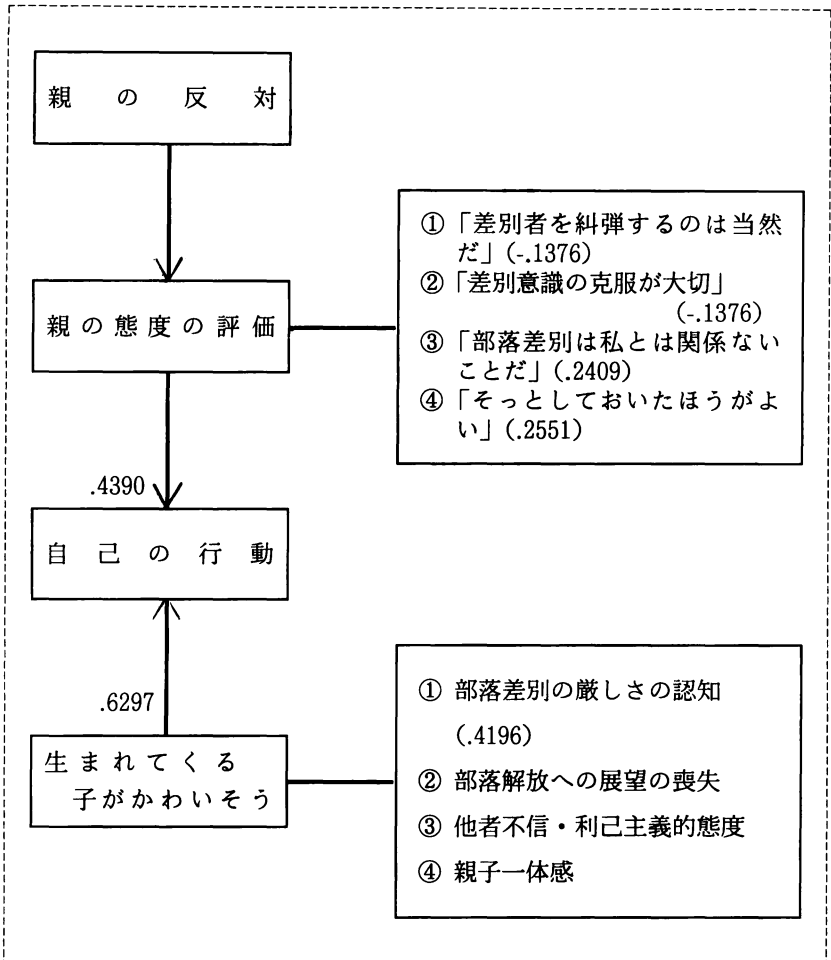
こうした意識調査によくある批判は、「あるべき回答」がみえているので、タテマエで回答する、だからこうした調査結果はあてにできないというものだ。もちろん、そうした傾向がまったくないとは断言できない。しかし、調査結果をみていくと、学生はこうした質問に素直に回答していることがわかる。けっしてタテマエで回答してよしとしているわけではない。たとえば、親が強固に反対した場合、「結婚しない」と回答するものは半数を越えている。結果は、部落出身学生が、穏やかに受けとめられるものではないにしろ、自分の気持ちに正直に答えている。

かりに親が反対しても、それを撥ね返せる主体は、いかにしたら形成されるのか。この答えを、こうした簡単なアンケート調査結果から得るには、この間はあまりにも大きい。しかし、このアンケート調査からでも、この間に答える手掛かりはつかめる。結婚相手が、親の反対に出会った場合に、動揺しないためには、親の反対をただ単に「おかしい」と批判的するだけでなく、「許せない」と強く感性レベルでとらえることが不可欠である。その反応は、①部落差別に対する感性的な憤りだけでなく、規範レベルの評価、価値づけ、部落問題と自己との関係性の認識、部落問題の社会科学的認識の深さ、部落問題解決への展望などによって支えられている。

他方、部落差別への落とし穴は、「差別をしたくはないが、差別をされたくもない」という、ある意味では至極当然な思いであるが、しかし結婚の場面では、この態度が、結婚差別への加担になることは、多言を要しない。結婚忌避の背景には、「生まれてくる子がかわいそう」という見方がある。この見方が差別を生み、差別がこの見方をうむという悪循環の中にはまりこんでしまうと脱出は困難である。この陥穽から脱するには、部落解放の展望をつかむことが大切である。

以上のように、今回の意識調査であきらかになったことをもとに先の図式を修正すると、つぎのようになる。

図6-2 修正した図式



付 録

① 単 純 集 計

② 調 査 表

問3-1. 「同和教育」を受けて、よかったと思いますか。それとも、受けなかったほうがよかったと思いますか。

	1. よかった	2. どちらかといえばよかった	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば受けないほうがよかった	5. 受けなかったほうがよかった	不明
総数	34.2	27.5	33.6	2.4	1.4	1.0
性別						
男性	35.5	27.3	32.8	1.6	1.6	1.1
女性	32.1	27.7	34.8	3.6	0.9	0.9

問4. あなたは、本学で開講されている部落問題論を受講しましたか。

1. 現在、受講している。
2. 単位を取った。
3. 受講届は出したが、単位は取らなかった。
4. いずれ受講するつもりである。
5. 受講するつもりはない。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	不明
総数	11.2	33.3	2.1	3.5	45.7	4.1
性別						
男性	11.8	37.9	2.4	4.3	39.3	4.3
女性	10.2	25.8	1.6	2.3	56.3	3.9

問4-1. 部落問題論を受けてよかったと思いますか。それとも、受けなかったほうがよかったと思いますか。

	1. よかった	2. どちらかといえばよかった	3. どちらともいえない	4. どちらかといえば受けないほうがよかった	5. 受けなかったほうがよかった	不明
総数	44.4	31.1	21.9	2.0	0.0	0.7
性別						
男性	46.7	25.7	26.7	1.0	0.0	0.0
女性	39.1	43.5	10.9	4.3	0.0	2.2

問5. あなたは、部落問題に関する次のことがらについて、ご存じですか。

A. 被差別身分が作られた理由

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	92.9	6.2	0.9
性別			
├男性	92.9	5.7	1.4
└女性	93.0	7.0	0.0

B. 全国水平社が結成された歴史的背景

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	62.5	36.6	0.9
性別			
├男性	62.1	36.5	1.4
└女性	63.3	36.7	0.0

C. 同和対策審議会の答申が出されたこと

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	32.7	66.7	0.6
性別			
├男性	36.0	63.0	0.9
└女性	27.3	72.7	0.0

D. 「部落地名総鑑」が社会的な問題になったこと

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	79.6	19.8	0.6
性別			
├男性	85.8	13.3	0.9
└女性	69.5	30.5	0.0

E. 「大阪府差別調査規制条例」が制定されたこと

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	12.7	86.7	0.6
性別			
├男性	15.2	83.9	0.9
└女性	8.6	91.4	0.0

F. 「地対財特報」が制定されたこと

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	22.7	76.1	1.2
性別			
├男性	24.6	73.9	1.4
└女性	19.5	79.7	0.8

G. 本学に同和問題研究室があること

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	72.0	27.4	0.6
性別			
├男性	70.6	28.4	0.9
└女性	74.2	25.8	0.0

H. 同和問題委員会が春秋に開催している講演会や映画会

	1. 知っている	2. 知らない	不明
総数	72.3	27.1	0.6
性別			
├男性	65.4	33.6	0.9
└女性	83.6	16.4	0.0

問7. 本学の同和問題委員会と同和問題研究室が毎年出している「部落問題ハンドブック」を読んだことがありますか。

	1. 詳しく読んだ	2. ところどころ読んだ	3. チラリと見ただけ	4. そんなものがあることを知らない	不明
総数	5.0	44.5	37.8	12.1	0.6
性別					
男性	4.7	43.1	37.9	13.3	0.9
女性	5.5	46.9	37.5	10.2	0.0

問8. 昨年度、本学で4件連続して起こった差別落書事件についての同和問題委員会の声明や学長談話をよみましたか。

	1. 詳しく読んだ	2. ところどころ読んだ	3. チラリと見ただけ	4. そんなものがあることを知らない	不明
総数	9.7	36.0	30.4	23.3	0.6
性別					
男性	11.4	36.0	25.6	26.1	0.9
女性	7.0	35.9	38.3	18.8	0.0

問9. 同和問題について、次のような意見がありますが、あなたはどう思いますか。

1. そう思う。
2. どちらかといえばそう思う。
3. どちらかといえばそう思わない。
4. そうは思わない。

A. 人間のつくる社会である以上、部落差別はいつまでたってもなくならない。

	(1)	(2)	(3)	(4)	不明
総数	4.1	23.9	31.9	39.2	0.9
性別					
男性	4.3	24.6	28.9	41.7	0.5
女性	3.9	22.7	36.7	35.2	1.6

B. 部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話だ

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	2.9	27.1	31.3	38.1	0.6
性 別					
┌ 男 性	4.3	22.7	29.9	42.7	0.5
└ 女 性	0.8	34.4	33.6	30.5	0.8

C. 部落問題に深くかかわることには、ためらいを感じてしまう

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	10.6	49.3	22.4	16.8	0.9
性 別					
┌ 男 性	11.8	43.1	24.6	19.4	0.9
└ 女 性	8.6	59.4	18.8	12.5	0.8

D. 部落問題を解決するためには、自分のなかにある差別意識や偏見をなくすことが大切

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	69.9	20.1	5.0	4.1	0.9
性 別					
┌ 男 性	68.2	20.4	5.7	5.2	0.5
└ 女 性	72.7	19.5	3.9	2.3	1.6

E. 差別した者を厳しく追及するのは当然だと思う

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	25.4	43.7	20.6	9.4	0.9
性 別					
┌ 男 性	24.6	40.8	21.3	11.8	1.4
└ 女 性	26.6	48.4	19.5	5.5	0.0

F. 部落の人自身が、差別されないように自分の行いを反省することが必要だ

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	9.7	27.4	32.7	28.3	1.8
性 別					
┌ 男 性	11.8	25.1	32.7	28.0	2.4
└ 女 性	6.3	31.3	32.8	28.9	0.8

G. 部落の人達が、かたまって住まないで分散して住むようにすれば、問題は解決する

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	4.7	25.4	31.0	37.8	1.2
性 別					
〔 男 性	6.2	23.2	27.5	41.7	1.4
〔 女 性	2.3	28.9	36.7	31.3	0.8

H. 部落問題を解決するには、部落の人達の職業の安定や教育の向上をはかることが大切

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	37.5	42.2	11.5	7.4	1.5
性 別					
〔 男 性	36.0	40.8	12.3	9.0	1.9
〔 女 性	39.8	44.5	10.2	4.7	0.8

I. 同和対策事業を特別にすることは、もう必要ないと思う

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	8.0	22.1	40.4	27.7	1.8
性 別					
〔 男 性	11.4	20.9	40.8	24.6	2.4
〔 女 性	2.3	24.2	39.8	32.8	0.8

J. 「部落の人と結婚すると、生まれてくる子供がかわいそうだ」という意見がありますがそれについて、あなたはどのように思いますか

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	4.7	22.7	28.9	42.8	0.9
性 別					
〔 男 性	3.8	16.1	27.0	51.7	1.4
〔 女 性	6.3	33.6	32.0	28.1	0.0

K. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	13.3	26.3	26.8	31.9	1.8
性 別					
〔 男 性	14.2	21.8	27.5	34.1	2.4
〔 女 性	11.7	33.6	25.8	28.1	0.8

問10. もし仮に、あなたが結婚しようとしている人が、部落出身であることがわかった場合を想定してください。

- (1) あなたの両親はどのような態度をとると思いますか。
1. 頭から、とんでもない、と反対するだろう。
 2. 迷いながらも、結局は、反対するだろう。
 3. 迷いながらも、結局は、賛成してくれるだろう。
 4. ためらうことなく、賛成してくれるだろう。

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	27.7	35.4	25.7	10.3	0.9
性 別					
〔 男性	21.8	37.9	27.0	12.3	0.9
〔 女性	37.5	31.3	23.4	7.0	0.8

- (2) 親の態度について、あなたはどのように思いますか。
1. もっともだと思う。
 2. 親がそんな態度をとるのはわかりませんが、納得できない。
 3. 許せない。

	(1)	(2)	(3)	不 明
総 数	39.5	48.7	8.0	3.8
性 別				
〔 男性	38.4	47.4	9.5	4.8
〔 女性	41.4	50.8	5.5	2.3

- (3) あなたは、結局、どうしますか。
1. きっと結婚する。
 2. たぶん結婚するだろう。
 3. たぶん結婚しないだろう。
 4. きっと結婚しないだろう。

	(1)	(2)	(3)	(4)	不 明
総 数	29.5	44.5	19.5	2.1	4.4
性 別					
〔 男性	38.4	44.1	13.3	0.5	3.8
〔 女性	14.8	45.3	29.7	4.7	5.5

問11. もし、あなたが本学内で、部落差別の落書きを発見したらどうしますか。

1. とくになにもしない。
2. 落書きがあったことを、事務の人か先生に知らせる。
3. その場ですぐに落書きを消す。
4. その他 ()
5. わからない。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	不 明
総 数	45.4	14.2	11.5	5.0	23.3	0.6
性 別						
┌ 男 性	49.8	15.2	11.4	4.7	18.5	0.5
└ 女 性	38.3	12.5	11.7	5.5	31.3	0.8

人権問題に関する学生意識アンケート

※※※※※※※※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

- ☆ このアンケートは、1985年にひきつづいて、同和問題をめぐる学生の意識について調査して4年間の意識の変化を見、また、今年度新たに民族問題をめぐる学生の意識について調査し、大学としての今後の同和問題および民族問題教育のありかたを考える基礎資料とするためのものです。
- ☆ このアンケートは学生について無作為に抽出した1/6の方を対象としております。回収率が低いと信頼性のある結果が得られませんので、ぜひあなたのご協力をお願いします。
- ☆ なお、あなたの回答内容がどのようなものであれ、あなたにご迷惑をかけるようなことは一切ありません。回答は厳重に保管し、回答結果はコンピューターで統計的に処理し、調査結果は個人が特定できるような形では集計することはしません。回答はもちろん無記名です。
- ☆ このアンケートは、個人を対象にしていますので、家族の方などに相談せずに、あなた自身のお考えでご回答ください。
- ☆ それぞれの質問をよく読んで、思ったとおり率直に回答してください。回答はあてはまる答えの数字に○印をつけてください。もし、適当な答えがない場合は、無記入のまま、つぎの質問に移ってください。
- ☆ このアンケートについての質問などありましたら、下記へご連絡ください。
- ☆ ご回答いただけましたら、折り返し、返信用封筒に入れて、1990年1月20日までに、ご返送ください。

大阪市立大学同和問題委員会
大阪市立大学外国人学生問題委員会

調査についてのお問い合わせは、委員会（605-2032）まで。

問1. あなたは、日本の社会に、「被差別部落」「未解放部落」「同和地区」または単に「部落」とよばれる地区があり、差別を受けている人々がいることを知っていますか。

1. 知っている。
2. 話に聞いたことがある。
3. 全く知らない。 → 41 頁の問 13へ移ってください。

④

問2. では、あなたが、差別をうけている地区（「同和地区」）があることをはじめで知ったのはどういうことからですか。 一つだけ選んでください。

1. 家族、親族、近所の人、友人または知人から聞いた。
2. 学校の先生の話または講演会で知った。
3. 本新聞、映画またはテレビで知った。
4. 掲示物（ポスター、看板、垂れ幕など）またはビラで知った。
5. 府県または市町村の広報紙で知った。
- 6.なんとなく知った（はっきりおぼえていない）。
7. その他（具体的に書いてください）（

⑤

問3. あなたは、これまでに（大学入学前に）学校で「同和教育」（部落差別やその他の差別問題に関する授業）を受けたことがありますか。

1. ある。
2. ない。 → 34 頁、問 4へ移ってください。

⑥

問3-1. では、「同和教育」を受けて、よかったと思いますか。それとも、受けなかったほうがよかったと思いますか。

1. よかった。
2. どちらかといえばよかった。
3. どちらともいえない。
4. どちらかといえば受けなかったほうがよかった。
5. 受けなかったほうがよかった。

⑦

⇒ つぎのページへ

問4. あなたは、本学で開講されている部落問題論を受講しましたか。

1. 単位を取った。
2. 現在、受講している。
3. 受講届は出したが、単位はとらなかった。
いずれ受講するつもりである。 _____ 35頁、問5へ移ってください。
受講するつもりはない。 _____

⑧

問4-1. では、部落問題論を受けてよかったと思いますか。それとも、受けなかったほうがよかったと思いますか。

1. よかった。
2. どちらかといえばよかった。
3. どちらともいえない。
4. どちらかといえば受けなかったほうがよかった。
5. 受けなかったほうがよかった。

⑨

問4-2. 何故そのように思うのか、その理由を自由に書いてください。

Blank area for writing the answer to question 4-2.

⇒ つぎのページへ

問5. あなたは、部落問題に関する次のことがらについて、ご存じですか。

- | | 知っている | 知らない | |
|---|-------|------|---|
| A. 被差別身分がつくられた理由について…………… | 1 | 2 | ⑩ |
| B. 全国水平社が結成された歴史的背景について…………… | 1 | 2 | |
| C. 1965年に国の同和対策審議会の答申が出
されたことについて…………… | 1 | 2 | ⑫ |
| D. 「部落地名総鑑」が社会的に問題になったこ
とについて…………… | 1 | 2 | |
| E. 「大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等
に関する条例」（1985年）が制定された
ことについて…………… | 1 | 2 | ⑭ |
| F. 1987年に「地域改善対策特定事業に係る
国の財政上の特別措置に関する法律」が制定
されたことについて…………… | 1 | 2 | |
| G. 本学に、同和問題研究室があることについて…………… | 1 | 2 | ⑯ |
| H. 本学の同和問題委員会が春秋に講演会や映画
会を開催していることについて…………… | 1 | 2 | |

問6. 今後、本学が部落問題関係の催しをすれば、あなたはどのようなことを希望しますか。自由に書いてください。

⇒つぎのページへ

問7. 本学の同和問題委員会と同和問題研究室が毎年出している「部落問題ハンドブック」を読んだことがありますか。

	ところどころ	チラリと	そんなものがある
詳しく読んだ	読んだ	見ただけ	ことを知らない
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

⑱

問8. 昨年度、本学で4件連続して起こった差別落書事件についての同和問題委員会の声明や学長談話を読みましたか。

	ところどころ	チラリと	そんなものがある
詳しく読んだ	読んだ	見ただけ	ことを知らない
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

⑲

問9. 同和問題について、次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。

A. 「人間のつくる社会である以上、部落差別はいつまでたってもなくなるらない」

	どちらかといえ	どちらかといえ	
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

⑳

B. 「部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話しだ」

	どちらかといえ	どちらかといえ	
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

㉑

C. 「部落問題に深くかかわることには、ためらいを感じてしまう」

	どちらかといえ	どちらかといえ	
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない
1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

㉒

⇒ つぎのページへ

D. 「部落問題を解決するためには、自分のなかにある差別意識や偏見をなくすことが大切だと思う」

	どちらかといえ	どちらかといえ				
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない			
1	—————	2	—————	3	—————	4

㉔

E. 「差別した者を厳しく追及するのは当然だと思う」

	どちらかといえ	どちらかといえ				
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない			
1	—————	2	—————	3	—————	4

㉕

F. 「部落の人自身が、差別されないように自分の行いを反省することが必要だ」

	どちらかといえ	どちらかといえ				
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない			
1	—————	2	—————	3	—————	4

㉖

G. 「部落の人たちが、かたまって住まないで、分散して住むようにすれば、問題は解決すると思う」

	どちらかといえ	どちらかといえ				
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない			
1	—————	2	—————	3	—————	4

㉗

H. 「部落問題を解決するためには、部落の人たちの職業の安定や教育の向上をはかることが大切だと思う」

	どちらかといえ	どちらかといえ				
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない			
1	—————	2	—————	3	—————	4

㉘

⇒ つぎのページへ

I. 「同和対策事業を特別にすることは、もう必要ないと思う」

	どちらかといえ	どちらかといえ	
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない
1	_____ 2	_____ 3	_____ 4

㉔

J. 「『部落』の人と結婚すると、生まれてくる子供がかわいそうだ」という意見がありますが、それについて、あなたはどのように思いますか。

	どちらかといえ	どちらかといえ	
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない
1	_____ 2	_____ 3	_____ 4

㉕

K. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい。

	どちらかといえ	どちらかといえ	
そう思う	ば、そう思う	ば、そう思わない	そうは思わない
1	_____ 2	_____ 3	_____ 4

㉖

問10. もし仮に、あなたが結婚しようと思っている人が、部落出身であることがわかった場合を想定してください。

(1) あなたの両親はどのような態度をとると思いますか。両親のうちあなたにとってより影響力の大きい人を思い浮かべながら、教えてください。

1. 頭から、とんでもない、と反対するだろう。
2. 迷いながら、結局は、反対するだろう。
3. 迷いながらも、結局は、賛成してくれるだろう。
4. ためらうことなく、賛成してくれるだろう。

㉗

(2) 親の態度について、あなたはどのように思いますか。

1. もっともだと思う。
2. 親がそんな態度をとるのはわかるが、納得できない。
3. 許せない。

㉘

⇒ つぎのページへ

題を含めて、基本的人権の尊重を訴えた。それにもかかわらず、今回このような悪質な差別落書が発見されたことは遺憾極まりない。

昨年来の学内での相次ぐ差別落書の発生は、最近における各種の差別事件の発生に代表されるように、差別意識が未だ根強く存在しているという現在の社会的状況と無縁ではないと思われる。これらの差別落書については意図的な作為が感じられるが、本学のなかに差別意識が根強く残存していることを示すものである。本委員会としては、差別落書を書いた本人に対して、人権尊重の立場に立ち、直ちに落書を止めて、自ら名乗り出ることを呼びかける。また、差別落書が連続して発生し悪質化している事態を深刻に受けとめ、学内での差別実態を把握するよう努めるとともに、同和問題に関する教育・研究・啓発活動をさらに強化し、差別のない大学の実現に向けて努力する所存である。全学構成員諸君にも、差別撤廃・人権尊重を旨とした行動を期待したい。

なお、差別落書など人権侵犯に関する事柄について、何か気の付かれたことのある方は本委員会（連絡先：605-2032）まで連絡していただきたい。

1989年2月1日

大阪市立大学同和問題委員会

このような事件は何故発生するのだと思いますか。また、このような事件をなくすにはどのようにしたらよいと思いますか。もし、あなたがこのことについて日頃から感じていることや考えていることがあれば、素直に書いてください。

⇒ つぎのページへ

問16. あなたは、在日朝鮮人問題に関する次のことがらについて、知っていますか。

知っている 知らない

1. 1910年の「朝鮮併合」(いわゆる「日韓併合」)
後になされた「土地調査事業」について…………… 1 ——— 2 ④
2. 関東大震災時に、当時の調査によれば6000人以上
の朝鮮人が大量虐殺されたことについて…………… 1 ——— 2
3. 第二次大戦中に行われた「創氏改名」について…………… 1 ——— 2 ④
4. 現在も、在日朝鮮人に対してマンション等の入居差
別があることについて…………… 1 ——— 2
5. 本学の外国人学生問題委員会が春秋に講演会を開催
していることについて…………… 1 ——— 2 ④

問17. 今年度、本学で起こった在日朝鮮人差別発言事件やこの7月までに4件連続して起こった同差別落書事件についての外国人学生問題委員会の音声を、あなたは読みましたか。

- | | | | |
|--------|--------|-------|----------|
| 詳しく読んだ | ところどころ | チラリと | そんなものがある |
| | 読んだ | 見ただけ | ことを知らない |
| 1 ——— | 2 ——— | 3 ——— | 4 ——— |

④

問18. 現在、地方自治体によっては、公務員(国公立小・中・高校の教員を含む)の採用に際して、いわゆる国籍条項があります。その国籍条項により、在日朝鮮人は、それらへの就職の道が閉ざされています。あなたは、このことを知っていますか。

1. 知っている。
2. 知らない。

④

⇒ つぎのページへ

